

# 平成29年度第1回市政モニターアンケート結果

## テーマ「子どもの貧困」・「子どもの居場所・環境」について

- (1) 対象 市政モニター 150人  
(2) 回答者数 141人  
(3) 実施期間 平成29年7月10日から8月4日まで  
(4) 目的 本市では、子どもとその家庭を取り巻く環境が著しく変化するなか、次代のさがみはらを担う子どもたちの健やかな成長を支える取組を計画的に進めるため、「相模原市子ども・子育て支援事業計画」を策定いたしました。
- このアンケートは、すべての子どもが将来に夢と希望を持ち、また保護者が家庭で安心して子育てができ、育てる喜びを感じられる環境づくり・支援体制の充実を推進する上での基礎資料として活用するために実施するものです。

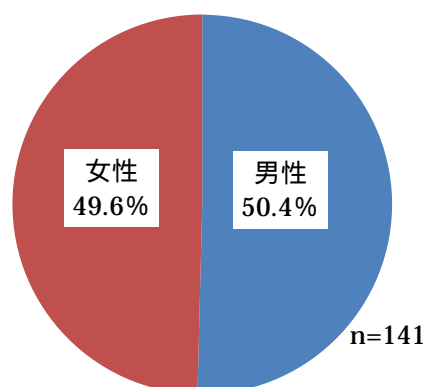
表、グラフ内の数字は回答者数を基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。

### 【基本的項目についてお伺いします。】

【問1】 あなたの性別をお伺いします。（回答は1つ）

1 男性	2 女性
------	------

選択肢	回答数	回答分布
1	71	50.4%
2	70	49.6%
計	141	100.0%

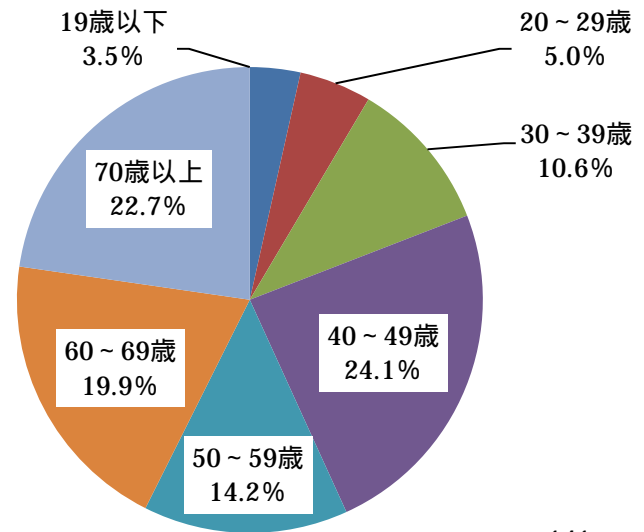


回答された方の性別は以上のとおりです。

【問2】 あなたの年齢をお伺いします。（回答は1つ）

1	19歳以下	4	40～49歳	7	70歳以上
2	20～29歳	5	50～59歳		
3	30～39歳	6	60～69歳		

選択肢	回答数	回答分布
1	5	3.5%
2	7	5.0%
3	15	10.6%
4	34	24.1%
5	20	14.2%
6	28	19.9%
7	32	22.7%
計	141	100.0%



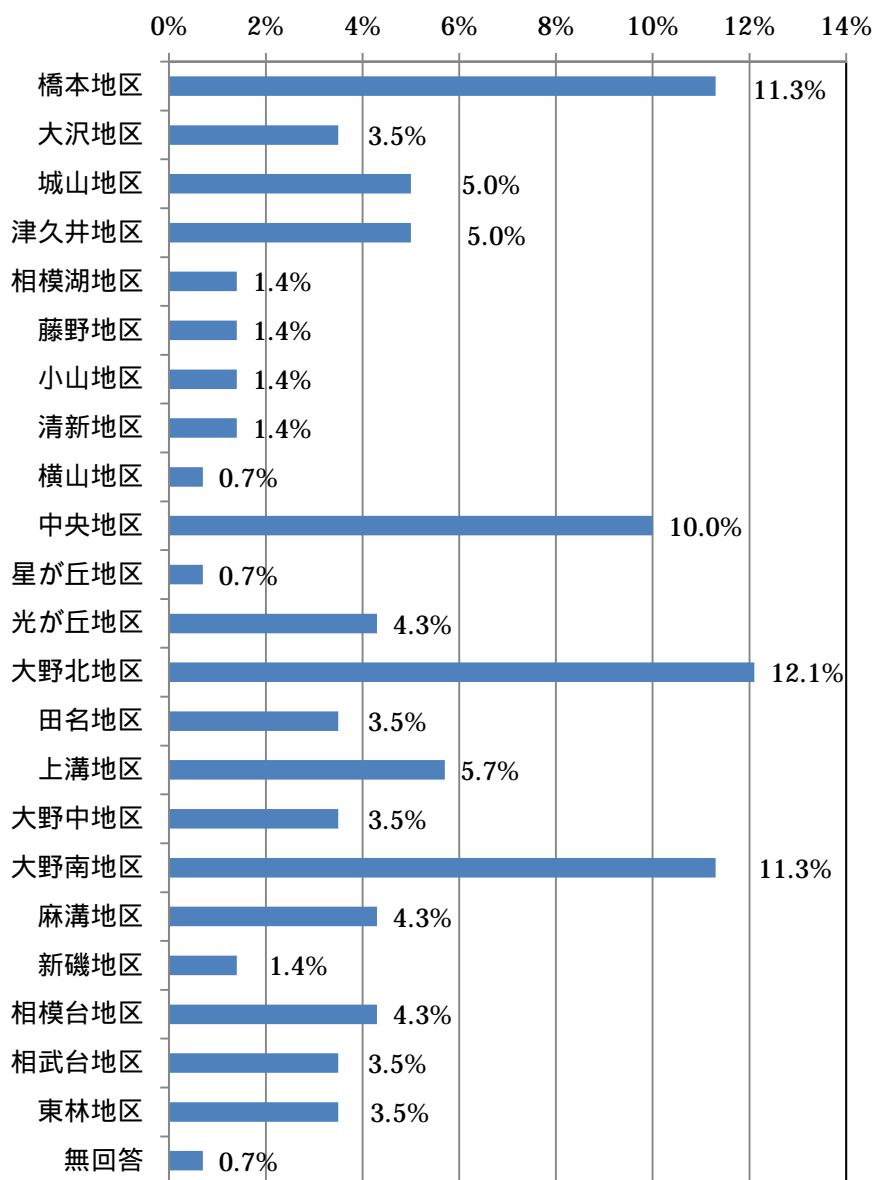
n=141

回答された方の年齢層は以上のとおりです。

問3 あなたのお住まいの地区をお伺いします。(回答は1つ)

1 橋本地区	7 小山地区	13 大野北地区	19 新磯地区
2 大沢地区	8 清新地区	14 田名地区	20 相模台地区
3 城山地区	9 横山地区	15 上溝地区	21 相武台地区
4 津久井地区	10 中央地区	16 大野中地区	22 東林地区
5 相模湖地区	11 星が丘地区	17 大野南地区	
6 藤野地区	12 光が丘地区	18 麻溝地区	

選択肢	回答数	回答分布
1	16	11.3%
2	5	3.5%
3	7	5.0%
4	7	5.0%
5	2	1.4%
6	2	1.4%
7	2	1.4%
8	2	1.4%
9	1	0.7%
10	14	10.0%
11	1	0.7%
12	6	4.3%
13	17	12.1%
14	5	3.5%
15	8	5.7%
16	5	3.5%
17	16	11.3%
18	6	4.3%
19	2	1.4%
20	6	4.3%
21	5	3.5%
22	5	3.5%
無回答	1	0.7%
計	141	100.0%



回答された方のお住まいの地区は以上のとおりです。

**【子どもの貧困について】**

平成25年度国民生活基礎調査では、平成24年の子どもの貧困率（相対的貧困率）は全国で16.3%と過去最高を更新したと発表され、子どもの貧困対策への関心が高まっており、国を挙げての対策が急務となっております。

なお、相対的貧困率とは、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいい、貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいいます（2人世帯（ひとり親等）の場合年間173万円、4人世帯の場合年間244万円）。

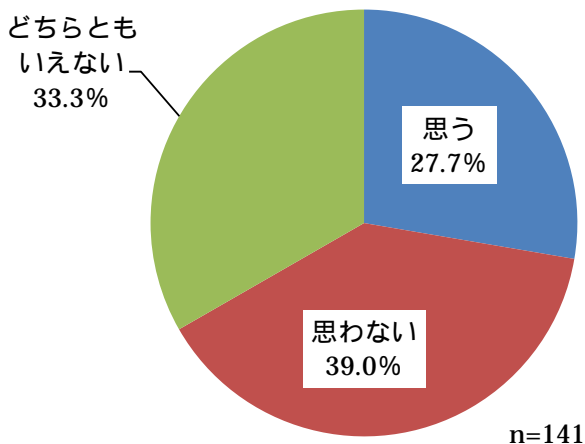


「子供の未来応援国民運動」普及啓発ポスター

【問4】 「子どもの貧困」があなたの身近なところで起きていると思いますか（回答は1つ）

- |             |        |
|-------------|--------|
| 1 思う        | 2 思わない |
| 3 どちらともいえない |        |

選択肢	回答数	回答分布
1	39	27.7%
2	55	39.0%
3	47	33.3%
計	141	100.0%

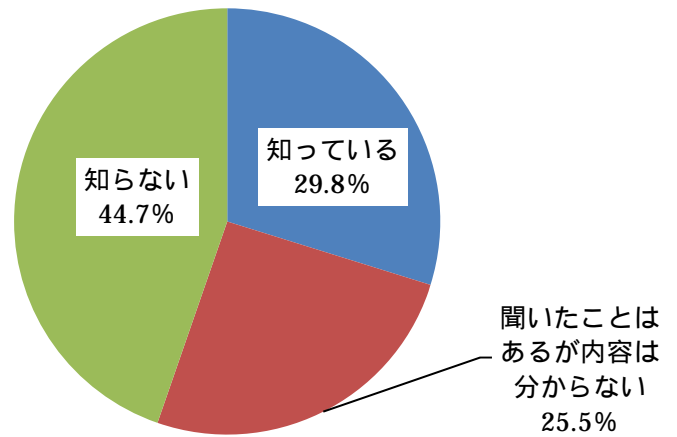


「子どもの貧困」に関して、身近なところで起きていると思う市民は27.7%という結果でした。

【問5】 子どもの貧困対策として、「子ども食堂」や「無料学習塾」などの取り組みが市内で行われていることを知っていますか。(回答は1つ)

- |         |                     |
|---------|---------------------|
| 1 知っている | 2 聞いたことはあるが内容は分からない |
| 3 知らない  |                     |

選択肢	回答数	回答分布
1	42	29.8%
2	36	25.5%
3	63	44.7%
計	141	100.0%



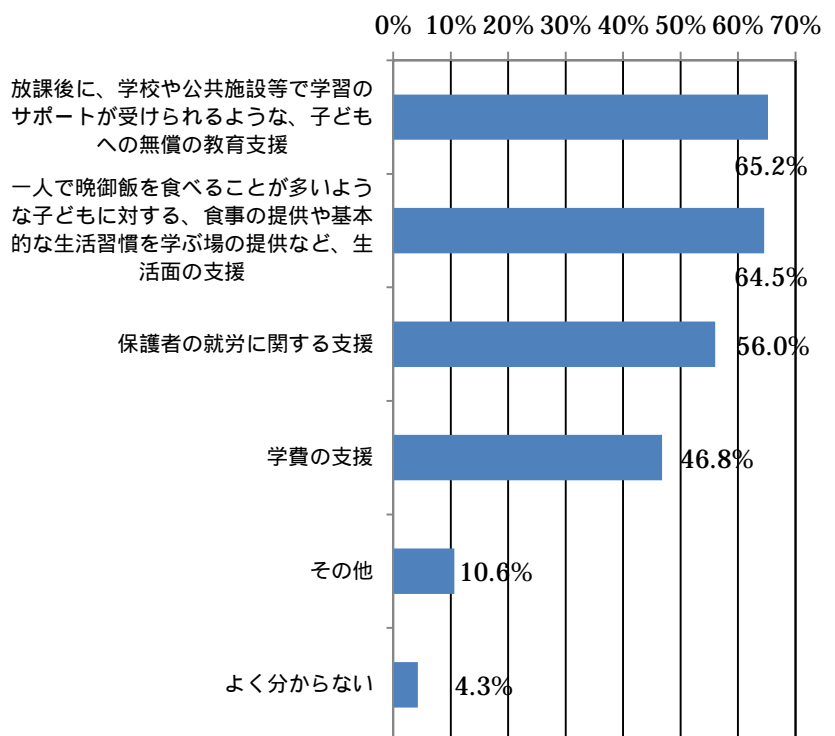
n=141

子どもの貧困対策として実施されている「子ども食堂」や「無料学習塾」などの取り組みについて知っている市民は29.8%という結果でした。

【問6】 子どもの貧困対策としてどんな取り組みが必要だと思いますか。(回答は3つまで)

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 放課後に、学校や公共施設等で学習のサポートが受けられるような、子どもへの無償の教育支援              |
| 2 | 一人で晩御飯を食べることが多いような子どもに対する、食事の提供や基本的な生活習慣を学ぶ場の提供など、生活面の支援 |
| 3 | 保護者の就労に関する支援   |
| 4 | 学費の支援  |
| 5 | その他( )   |
| 6 | よく分からない  |

選択肢	回答数	回答分布
1	92	65.2%
2	91	64.5%
3	79	56.0%
4	66	46.8%
5	15	10.6%
6	6	4.3%

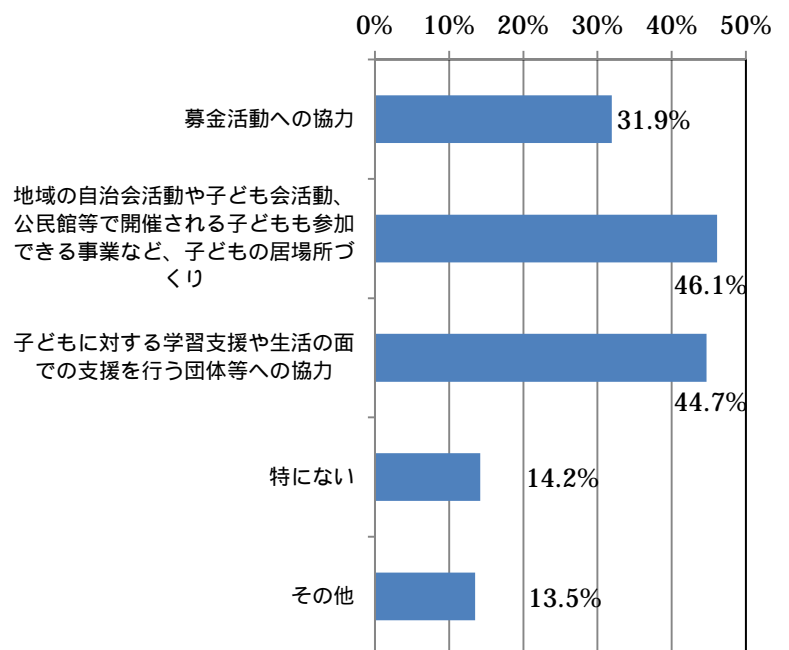


子どもの貧困対策として必要だと思う施策は、「放課後に、学校や公共施設等で学習のサポートが受けられるような、子どもへの無償の教育支援」65.2%が最も高く、次いで「一人で晩御飯を食べることが多いような子どもに対する、食事の提供や基本的な生活習慣を学ぶ場の提供など、生活面の支援」64.5%、「保護者の就労に関する支援」56.0%と続きました。「その他」の回答としては「子どものことや生活、自分自身のことを相談できる場所や人がいる環境を作ること」「休日等に利用するレジャー施設の割引」等がありました。

【問7】 相対的貧困の状況に置かれている子どもの支援のために自身ができること、したいと思うボランティア活動はありますか。(回答はいくつでも)

- 1 募金活動への協力
- 2 地域の自治会活動や子ども会活動、公民館等で開催される子どもも参加できる事業など、子どもの居場所づくり
- 3 子どもに対する学習支援や生活の面での支援を行う団体等への協力
- 4 特にない
- 5 その他( )

選択肢	回答数	回答分布
1	45	31.9%
2	65	46.1%
3	63	44.7%
4	20	14.2%
5	19	13.5%



子どもの支援のために自身ができること、したいと思うボランティア活動については、「地域の自治会活動や子ども会活動、公民館等で開催される子どもも参加できる事業など、子どもの居場所づくり」46.1%が最も高く、次いで「子どもに対する学習支援や生活の面での支援を行う団体等への協力」44.7%、「募金活動への協力」31.9%と続きました。「その他」の回答の中には、「高校の制服のリサイクル」「スポーツへのボランティア指導」「子ども食堂での食事作り」等がありました。

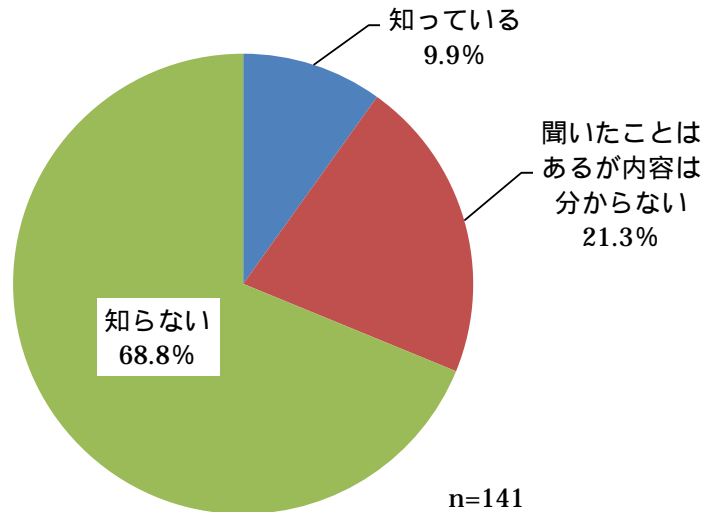
**【相模原市子どもの権利条例】についてお聞きします**

本市では、これからのさがみはらを築いていく子どもたちを地域社会全体で見守り、子どもたちが希望あふれる未来に向けて、成長することができるまちの実現を目指すとともに、子どもの権利を保障することを目的として、平成27年4月に「相模原市子どもの権利条例」を制定しました。

**【問8】 「相模原市子どもの権利条例」を知っていますか。(回答は1つ)**

- |         |                     |
|---------|---------------------|
| 1 知っている | 2 聞いたことはあるが内容は分からない |
| 3 知らない  |                     |

選択肢	回答数	回答分布
1	14	9.9%
2	30	21.3%
3	97	68.8%
計	141	100.0%



「相模原市子どもの権利条例」に関して、知っていると答えた市民は9.9%という結果でした。



**【子どもの権利相談室についてお聞きします】**

本市では、平成27年11月から、子どもの権利の侵害に関する相談窓口として「さがみはら子どもの権利相談室」を開設しています。

所在地 中央区矢部新町3-15 青少年学習センター内

相談日時 月曜日～金曜日 午後1時～午後8時 土曜日 午前10時～午後5時

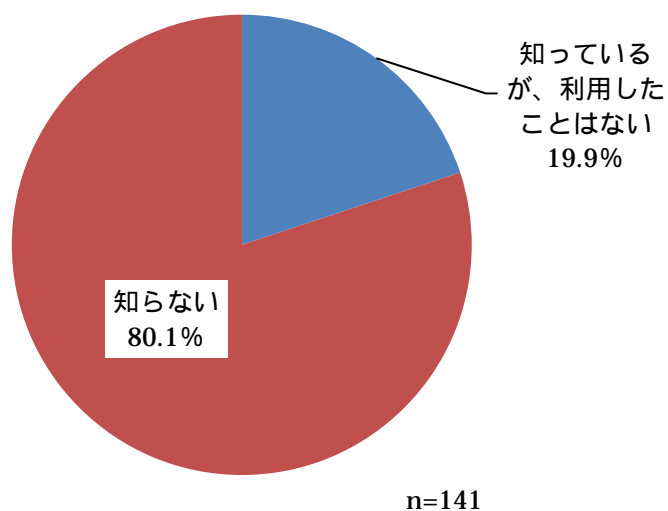
子ども専用相談電話 0120-786-108

大人の方は042-786-1894

**【問9】 子どもの権利相談室を知っていますか。(回答は1つ)**

1 知っていて、利用したことがある	2 知っているが、利用したことはない
3 知らない	

選択肢	回答数	回答分布
1	0	0%
2	28	19.9%
3	113	80.1%
計	141	100.0%



「子どもの権利相談室」を「知っていて、利用したことがある」と回答した市民は0人、「知っているが、利用したことはない」と回答した市民は19.9%でした。

**【子どもの居場所・環境についてお聞きします】**

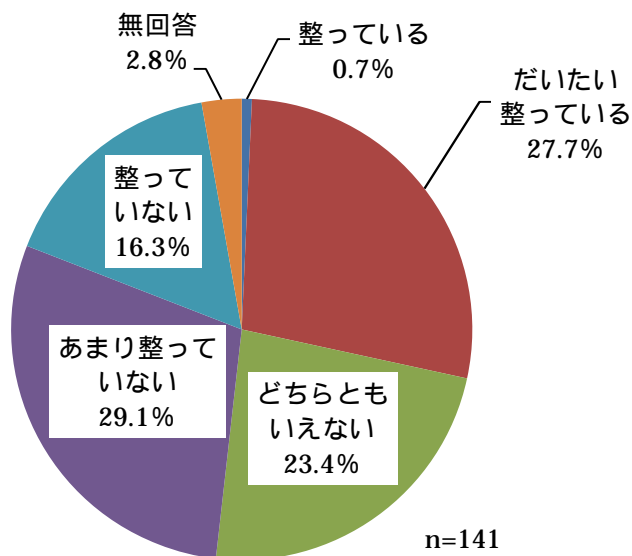
地域における子どもの数や屋外で自由に遊ぶことができる場所の減少により、年齢の異なる子どもが集団の中で遊び、ふれあうことを通して、他人を思いやる心や豊かな人間性を育む場が少なくなっています。このため、市では、子どもが自由に遊べ、安全に過ごすことができる遊び場や居場所等の場づくりを推進しています。

**【問10】** 子どもが生き生きと、のびのび暮らせる居場所・環境が整っていると思いますか。

(回答は1つ)

1 整っている	2 だいたい整っている	3 どちらともいえない
4 あまり整っていない	5 整っていない	

選択肢	回答数	回答分布
1	1	0.7%
2	39	27.7%
3	33	23.4%
4	41	29.1%
5	23	16.3%
無回答	4	2.8%
計	141	100.0%



子どもが生き生きと、のびのび暮らせる居場所・環境に関して、「整っている」、「だいたい整っている」と回答した市民は合わせて28.4%でした。

### 【子ども会についてお聞きします】

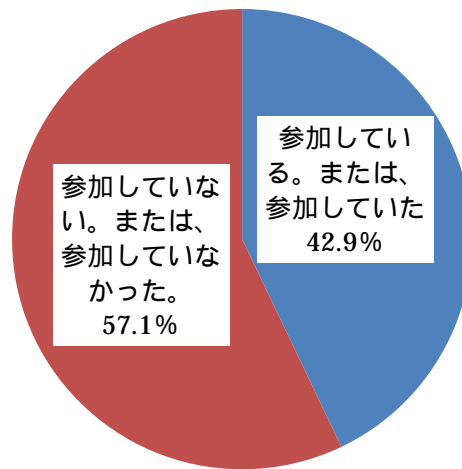
子ども会は地域の一員であるという意識を育て、校外における様々な遊びを通した子供たちの健やかな成長を目的としています。子どもの心身の成長発達、異年齢の集団による仲間づくり、子どもの遊びをとらえた活動などを行っています。

《【問11～12】は、6・7歳(小学1年)～18歳までの子どもがいる方にお伺いします。》

【問11】 子ども会の活動に参加していますか。(回答は1つ)

- 1 参加している。または、参加していた。      2 参加していない。または、参加していなかった。

選択肢	回答数	回答分布
1	21	42.9%
2	28	57.1%
計	49	100.0%



n=49

モニターのうち、6・7歳(小学1年)～18歳までの子どもがいる方は49人で、子ども会の参加状況は、「参加している。または、参加していた」と回答した市民が42.9%という結果でした。

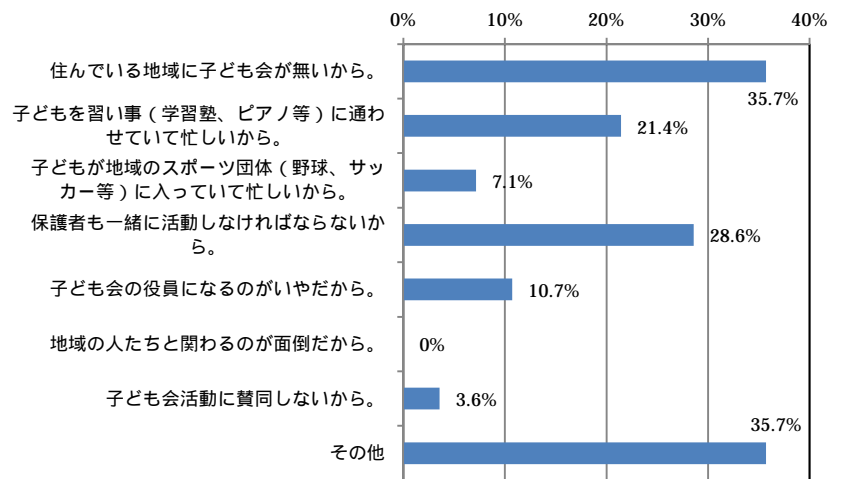
《【問11】で、「2 参加していない。または、参加していなかった。」とお答えの方へ》

【問12】 子ども会に参加していない（参加していなかった）理由は何ですか。

（複数回答可）

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 住んでいる地域に子ども会が無いから。                  |
| 2 | 子どもを習い事（学習塾、ピアノ等）に通わせていて忙しいから。      |
| 3 | 子どもが地域のスポーツ団体（野球、サッカー等）に入っていて忙しいから。 |
| 4 | 保護者も一緒に活動しなければならないから。               |
| 5 | 子ども会の役員になるのがいやだから。                  |
| 6 | 地域の人たちと関わるのが面倒だから。                  |
| 7 | 子ども会活動に賛同しないから。                     |
| 8 | その他（                                |

選択肢	回答数	回答分布
1	10	35.7%
2	6	21.4%
3	2	7.1%
4	8	28.6%
5	3	10.7%
6	0	0%
7	1	3.6%
8	10	35.7%



6・7歳（小学1年）～18歳までの子どもがいる方の中で、子ども会に「参加していない・参加していなかった」のは28人でした。理由に関しては、「住んでいる地域に子ども会が無いから。」「保護者も一緒に活動しなければならないから。」が多い結果となりました。「その他」の中には「近隣の子どもは自発的に仲間づくりをしている」「マンション自体が自治会に加入していないから」「子ども会の中でいじめがあったから早々にやめました。子ども会の活動自体が片寄っていてやる気がみられなかった」等がありました。

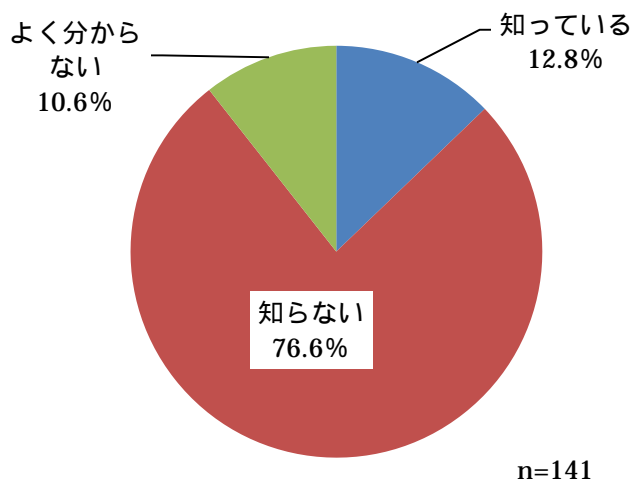
**【冒険遊び場についてお聞きします】**

冒険遊び場・・・本市では、子どもたちの健全な育成を図るため、しつらえた遊びではなく、『自分の責任で自由に遊ぶ』を合言葉に、禁止事項を極力少なくして、子ども自身が自由に遊びを創造することを目的とした常設の冒険遊び場（プレイパーク）を運営するとともに、遊び場をコーディネートするプレイリーダーの養成を、平成27年度からNPO団体に委託し実施しています。

**【問13】 「冒険遊び場」を知っていますか。（回答は1つ）**

- |           |        |
|-----------|--------|
| 1 知っている   | 2 知らない |
| 3 よく分からない |        |

選択肢	回答数	回答分布
1	18	12.8%
2	108	76.6%
3	15	10.6%
計	141	100.0%



冒険遊び場を「知っている」と回答した市民は12.8%という結果でした。

問14 子どもが生き生きとのびのび暮らせるために必要だと思うことを自由にご記入ください。

子どもの遊び場、またその環境等について

<p>・放課後の小学校の開放等、子ども達が自由に遊べる場所を提供する必要があると思います。</p>
<p>・最近市内では、マンション等の住宅施設や、スーパーマーケット・ドラッグストア等の商業施設が増えています。しかし、保育園・幼稚園等の子どもを預かる施設が増えていません。もっと子どもが安心して通える施設を増やしてほしいと思います。</p>
<p>・ボール遊びができる場所が必要。遊具などでは、小学校高学年になるとそれだけでは持て余すので、ゲーム等室内で遊ぶことが増えているように感じます。</p>
<p>・公園、グラウンド等の遊び場やスポーツ施設を確保する。 共働き両親の家庭の子ども達が安心できるように、近所の人や時間のある人に協力してもらい、親が戻るまで見守る仕組み作りの推進が必要。</p>
<p>・地域の公園では、ボール使用を禁止している所が多く、サッカー等が気軽にできません。私が子どものころは、空き地が多く、そこで野球をしていましたが、今はそのような場所はありません。小学校の校庭等を開放するなど、子どもたちが自宅の近くで遊べる場所を確保することが必要だと思います。</p>
<p>・思いっきり走って遊べて過ごせる場所を確保する。子ども同士が自由に遊ぶことができ、大人があまり口を出さない環境が必要だ。</p>
<p>・子どもが自由に遊ぶことができる広場を整備した方がいいです。公園では昆虫採集が禁止と掲示されていますが、カブトムシ等の昆虫を増やす努力をして、自由に子どもが昆虫採集できるような環境作りをした方がいいと思います。</p>
<p>・保護者・教師・地域の大人が連携して、子どもがのびのびと生活できる環境を作っていければいいと思うが、全ての子どもまで目が行き届かない場合があるので、子どもが気軽に駆け込める施設があればいいと思う。親の都合で子どもが不自由な思いをしないでほしいと思う。</p>
<p>・安心して遊べる環境が必要だと思います。親が遅くまで帰って来ない子はチャイムが鳴っても家に帰らずうろろしている事が多いと聞きます。学童とは違う遊べる場所の提供や学童の年齢を6年生までにするなど、周りの目がある事で安心できるのではないのでしょうか？親が安心できると子どもものびのびできる様になると思います。</p>
<p>・遊びたい時に思いっきり遊べる野外の環境が必要だと思う。</p>
<p>・自由に遊べる場所が欲しいです。勉強だけではなくストレス発散できるような遊べる場所が必要だと思います。</p>
<p>・子どもが外に出ても危なくないような環境がもっと整うといいと思います。例えば、道路の歩車分離や自転車などの交通マナーの徹底など。また、大きな公園など、多少元気に動き回っても平気な場所があるといいと思います。</p>
<p>・子ども達が自由に自分の感覚で、広場などを利用して遊べる場所があれば良いと思う。</p>

・子どもを対象としたイベントには積極的に参加しプレイパークにも遊びに行っています。そのような場では子どもを温かく見守ってくれる大人が多いですが、平日の放課後になると「生き生き、のびのび」と過ごせないことがあると思います。

プレイパークのような遊び場がもっと増えて、放課後にも気軽に遊びに行かせられたらいいのにと日々感じています。きれいな公園は近所にあります。しかし遊具に占領されてしまい思いっきり走り回ることができるスペースはほとんどありません。

秘密基地を作りたくてもきれいに整えられた植え込みの中に入ることは注意されています。

子どもの遊びに必要以上に口出しをせず温かく見守る大人が増えることと、プレイパークのような遊び場が増えることが必要だと思います。

#### 子どもを取り巻く地域・家庭環境等について

・子どもを養育できる最低限の保護者の経済力。

・子どもが家で精神的に安心していられる保護者との関係、兄弟姉妹を含む家族関係。

・学校内、友人関係において、それぞれ（個々）の違いがあることを認められていられる環境作り。こうしたことが課題であると思う。

・特に大切なのは、小学生への対応であり、市内の各地域にある小さな公園は小学生にとって学校から帰ってから友達と遊ぶ唯一の場所である。しかし、中学生や一部の小学校上級生などが、軟式テニス・サッカー・キャッチボール等行い、幼児・低学年の生徒にとっては危険で、遊ぶ場所が制限されてしまっている。私は中学生や一部の小学校上級生の行為が目にも余る時には注意をするが、それを見ている大人たちで注意する人をほとんど見かけない。そのような市内の各地域の住民の意識の問題だと思う。例えば、直接自分の子どもに危害が及ばなければ関与しないという、大人たちの意識と行動の変化が大切だと思う。

・子育てを家族や親だけに委ねるのではなく、地域や経験豊富な人材を師匠として登録し、人材の確保をしたり、提供できる場所を多く開放したりすることが必要。

・学校だけでなく、「隣組」のような感じの仕組みがあってもいいのではないかと感じている。

・生まれた時から近所、地域の人とふれ合い、親子のように仲良くして困った時助けてもらう、あるいは助ける、といった付き合いができていれば良いと思いました。結果として日頃の付き合いが大切だと思いました。

・子どもの境遇については、一番長い時間を一緒に過ごす親の問題が重要だと思います。周りの人々が色々考えて勝手な支援をしても、本当に望まれている支援なのか分かりません。まず、多種多様な実情を把握し、それぞれの問題点を洗い出し、それぞれに役立つ具体的な方策を検討するチームが欲しいです。

・子どもが生き生きと暮らす為には、まず近所付き合いが必要だと思う。昨今、自治会に入らない方や近所付き合いを好まない方々が増えている印象だ。その意識改善が必要である。それと、地域で子ども達を育てていくという環境を作るには、親や大人達が子ども達

を大切にするという意識を持った社会を作る事が先なのではなからうか。  
取り組みとしてまずは、学校（保育園・幼稚園・こどもセンターなど）・自治会・子ども会などで子ども達が安心して暮らせるような活動を話し合い、実行できる環境を作れたらいいと思う。それを地域住民に広く浸透させていく事が必要だと思う。

・親に心の余裕がほしい。

・放課後の学童保育の充実。大学の学費が高すぎる。だから親は働くしかない。

・「子どもが生き生きとのびのび暮らせる」ためには、その前提として、親の生活環境を整える事も必要です。その為にも働きたくとも働けない親への就労援助等の方策が必要だと思います。

・学ぶ意欲のある子ども達への学習支援や経済的支援が必要だと思います。

・子どもの貧困について。子どもの貧困率が高い水準にあることは、まず保護者の手取り収入を増やすこと、その就労支援、学費の支援等が必要だと思います。

・子どもの居場所環境について。貧困の子どもも含め、積極的に地域の自治会館や公民館等を利用して子どもの居場所を作り、学習支援や生活面の支援を行う。

・親以外の、信頼できる大人に囲まれて過ごす環境も必要。

#### その他

・毎月の市からのお知らせや、公民館等からの回覧板などをそれなりに見ているはずですが、「子どもの権利相談室」と「冒険遊び場」があることをこのアンケートにより知りました。

子ども達や、その親は知っているのでしょうか？

「子どもの権利相談室」と 0120 の専用相談電話があることを、子ども達とその親に周知徹底することにより、子ども自身とその親が考える問題点と解決策を把握することが肝心だと考えます。

・子どもの貧困問題、相模原子どもの権利条例、権利相談室、冒険遊び場等全て大切な事柄です。

殆どの一市民にとって、上記のことは知られていないのが問題です。一層広報活動を積極的にしてほしい。

・今回のアンケートで初めて知った情報が多かったので、情報提供がもっと必要なのかもしれない。